

安全に資する科学技術推進プロジェクトチーム第13回会合
議事要旨

1. 日時：平成17年10月13日（木）13:00～15:00
2. 場所：合同庁舎4号館 11階 共用第1特別会議室
3. 出席者：

（構成員）

薬師寺泰蔵（座長）	総合科学技術会議議員
阿部博之	総合科学技術会議議員
岸本忠三	総合科学技術会議議員
黒田玲子	総合科学技術会議議員

（招聘専門家）

小野正博	警察庁警察政策研究センター 所長
北岡元	国立情報学研究所 教授
倉田毅	国立感染症研究所 所長
志方俊之	帝京大学法学部 教授
村山裕三	同志社大学大学院ビジネス研究科 教授
山里洋介	元陸上自衛隊化学学校長

以上敬称略、五十音順

他、事務局

4. 議事概要

（1）第12回基本政策専門調査会の概要について

- ・ 第12回基本政策専門調査会の概要について事務局より説明。
（参照：<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kihon/haihu12/haihu-si12.html>）
安全安心に関わる記述は以下のとおり。
「基本理念及び科学技術の戦略的重点化に関する答申素案」
○1頁中程…大規模自然災害や様々な事故の発生などによる国民の不安への安全面での対処

- 4 頁下から 3 行目…近年の大規模自然災害や重大事故の発生など社会・国民の安全を脅かす事態の発生に伴い、安全と安心の問題に関する国民の関心が高まっている
- 8 頁…理念 3 健康と安全を守る ～安心・安全で質の高い生活のできる国の実現に向けて～・・・(中略)・・・安全が誇りとなり世界一安全と言える国を実現することを科学技術政策の目標に位置付ける
- 11 頁 (3) ①…近年急速に強まっている社会・国民のニーズ (安全・安心面への不安等)
- 12 頁 (7) …近年世界的な安全と安心を脅かしている国際テロ・犯罪による人為的脅威、地震・台風等による大規模自然災害などの社会的な課題
「科学技術システム改革に関する基本政策」
- 7 頁 (新たなニーズに対応した人材養成) …新興・再興感染症・テロリズム対策等の社会の安全に資する科学技術分野
- 18 頁 1 行目…このため、安全に資する科学技術分野や先端的機器開発等の研究開発において、公的部門側のニーズと研究開発側のシーズのマッチングや連携を促進する

注) これらについては基本政策専門調査会で議論中である。

・意見交換

- 情報収集衛星はフロンティア分野に入っているが、今後安全保障を考えていく時には安全という横串を通して拾うという考えでいいか。8 分野に入らないような安全保障にとって大事な技術が新たに出てきた場合、横串で拾われていくという理解でいいか。

阿部議員 例えばフロンティア分野の中で何をやっていくかということが大きな課題であり、8 分野の中でもっと選択と集中をやっていくということで基本政策専門調査会の合意に達している。各分野の中で何をやるか、国家基幹技術の捉え方も含め、安全・安心、セキュリティ、セーフティの面から非常に重要であるということはピックアップする大きい要因になる。ピックアップするものは識者を踏まえて議論し、国の競争力に関わる非常に大きい施策は国家基幹技術として取り上げることになる。

薬師寺座長 選択と集中を念頭にやっていくので新しい分野をたてるということではない。横串という意味は、何でもそこに埋没するわけではなく、戦略的に予算を伸ばしていく重要な部分を横串で拾うという議論である。総合安全保障については、基本政策専門調査会の委員の

方々から賛成していただいている。

阿部議員 既存の国が推進すべきプロジェクトは大体8分野に入ると認識しているが、新しいニーズが出てきた場合は弾力的に対応していくべきである。

- 答申素案の8頁に「健康」と「安全」が一緒に書かれているがレベルの違う話であり、一緒にすると論点がぼける感じがする。

薬師寺座長 人間にとって命が一番大事な安全保障分野であり、ライフサイエンス分野の健康を確保する科学技術に対する要求が、国民は強いということから、一緒に考えた方がよいということで書いている。ただ議論としてはそれぞれきちんとやっていく。

- 中国の有人宇宙飛行が成功したが、日本は有人宇宙飛行を推進するのかもしれないのか、ニーズはどのようなのか、ということについて戦略がない。答申素案の8頁の理念にある「安全」の中に安全保障について入ってくるべきである。目標6に「国土と社会の安全確保」とあるが、国土は領土とか領域という意味である。国家という表現が少ないように感じる。国家の安全と国土の安全とは全く異質である。over the horizonの科学技術を考えるのなら、国家・国民を守るために必要な技術である情報収集衛星や宇宙、航空のことはどこに出てくるのか。

薬師寺座長 文章の中では「国家・社会レベルからの生活者の暮らしに至るまで」と書いており、国家という単語は非常に節度をもって使っている。全体として総合安全保障が重要というふうと考えており、「国土」という表現は国家と同じ意味で書いている。また、国家基幹技術という表現も用いている。また、具体的な技術については分野別推進戦略の中に表れてくる。

(2) 安全に資する科学技術のあり方(第2期報告)について

- ・ 資料13-2「安全に資する科学技術のあり方(第2期報告)(案)」について事務局より説明。次回の基本政策専門調査会(10月26日)で薬師寺座長より報告する予定。

(3) 第3期シリーズの進め方について

- ・ 資料13-3『安全に資する科学技術推進プロジェクトチーム』第3

期シリーズの進め方について」事務局より説明。

・意見交換

薬師寺座長 第3期シリーズに入って、分野別推進戦略と連携しながらどう具体的に安全を入れていくか、どこの省が担当するかということも念頭に置きながら具体的にプログラムをどうしていくか、どこを戦略的に重点化するかという議論になるだろう。また、安全PTは勉強会から3年近くやっているのだから、最終報告書は少し格調高いものとしていきたい。

○ 最終評価報告書は、これまでの2つの報告と第3期シリーズを単純に合わせたような形となるのか、或いは全く書き直していくのか。

薬師寺座長 今後の議論の行方や報告書の位置付けは、例えば意見具申とするか否かなど決めていくことになるだろうが、事務局としてはどうか。

事務局（林統括官） 最終報告書は、意見具申もあり得るが、中身をみた上で判断していただきたい。

薬師寺座長 意見具申となれば各省はそれに従うこととなり、報告となれば、多少自由な議論もしやすくなる。最終報告書はこれまでの報告と全く違うものというよりは、総まとめになる。

事務局（林統括官） イメージとして、ここでの議論は、第3期基本計画の答申案に反映していくのが1つ。2つめに、分野別推進戦略に反映していく。例えば、ライフサイエンス分野の目と安全の目とでみるのでは若干異なる部分が生じるだろうから、そういう部分を各分野に注文を付けていき両者の観点から大事と言うことが必要である。3つめに、これを踏まえて、安全の集大成として最終報告をきちんとまとめていただければと思う。

薬師寺座長 8分野に対してどういう考え方をするか、各分野とコミュニケーションをきちんとする必要がある。

阿部議員 今、知財戦略で水際対策が重要となっている。偽物や爆発物をどうピックアップするかというのは大問題であり、科学技術でどうしたらいいかということが抜けている。知財戦略としてもこれから考えていくところであり、知恵をいただきたい。

○ 文言として出るときは格調高くなくてはいけないが、ここでの議論は本音でありたい。横串は、人間の安全保障は非常に通りがよいが、国の安全保障はあまり通りがよくない。ここではその話を避けない方がよい。over the horizon のものと今すぐやらなければならないも

のが科学技術の中にある。例えば、災害時要支援者の個人情報福祉関係者が把握しているが、消防関係者などのファーストレスポンドーは情報にアクセスできず、緊急時に血液型さえすぐわからない。韓国では、災害時要支援者は本人が申告してICタグを付けている。緊急時には消防士や救急員がアクセスできるという仕組みがあり、個人情報保護と救命のバランスをとっている。これはありきたりの技術なのに日本では使えない。このように人間の安全保障すらうまくいかない状況である。また、宇宙技術についても、例えば衛星の分解能をあげるというのはどの省のどのプログラムでやるのかよくわからない。今一番国家にとって大事なことが何なのか、何が国民のためなのかということもここで考える必要がある。

- 今後の進め方について3つ質問したい。最終報告書は各省に縛りのあるものとなるのか。少ない回数の中で分野別推進戦略とのやりとりはどういう風にやっていくのか。また、研究開発体制や人材育成等について検討したものと答申案との関係はどうなるのか。

事務局（林統括官） 最終報告書を本会議でどうするかは、中身をみながら判断することになり、意見具申となれば各省には縛りがあるものとなる。総理の前で議論することは確かだ、その報告方法は相談させていただく。8つの分野別推進戦略の策定をこれからやっていくので、まず安全PTから各分野に対して安全でこういうものが大事という注文を言う必要がある。その後、戦略づくりの段階で、各分野から案をもらってリターンするような方法もあるし、安全PTで議論を進めて各分野に示すやり方もあるが、効果的なキャッチボールとなるよう相談しながら進めたい。また、システム改革については、年末までに答申案にできるだけ入れる。その後は分野別推進戦略にも入れる。そして、安全PTの最終報告にもきちんと入れていく。

薬師寺座長 直面する問題についてきちんと共通認識をもって具体的にプログラムをつくっていく。そこに安全PTの思想もいれながら直していく。5年間の中で考えを直していくシステムも入れてやっていく。

- 安全安心の人材育成は複雑である。横串の人材育成はどういうものか。時間をかけてやらなければならない。

薬師寺座長 一般論として若手のキャリアパスや女性研究者の割合の確保ということも人材育成のひとつである。安全に関する人材が大事だということが第3期基本計画に入ってくれば、大学や企業などから様々なアプローチが始まってくるであろう。現段階でこれだと言ってしまうと我々も自信がない。安全と安心に関する人間がいろんな分野

に育ってくるということが人材につながるというイメージである。

- 大学の人は基本計画をきちんと読むが、残念ながら企業の人は案外読んでいない。安全については企業の中に人材が育つ方策が必要である。
- 日本の研究開発文化を変えなければならない。日本の大学は研究労働が多い。アメリカは研究者1人に対してピラミッド状に人もお金もついており、スタッフが研究労働している間にプロジェクトリーダーは次のことを考えることができる。これでは日本の科学技術は競争的なものにならない。予算の細目をまとめるのに時間がとられていることも問題である。こういう非効率な点を議論する場があるのか。

事務局（林統括官） システムの改革については現段階で気がついたことや、ある程度是正が可能なことを書きこんでいる。それだけでは済まず、今後、第3期が走り出した段階でも、総合科学技術会議等で議論して深めていく必要がある。

薬師寺座長 予算が物についているという問題がある。システム改革の問題は非常に重要である。答申素案の中では「モノから人へ」という視点で議論を進めている。

了